

記入例

景観形成基準確認シート

①建築物の建築等、②工作物の建設等：景観形成地域

届出者氏名		〇〇株式会社 代表取締役 〇〇〇〇																				
行為の場所		米沢市〇〇町〇丁目〇〇番〇〇号																				
周辺景観の特性		〇 当行為地の周囲には、〇〇公園、〇〇山があり、景観が優れた地域である。 〇 当行為地の周囲は、市街化が進んでおり、中層建築物が建ち並んでいる。 〇 当行為地は、歴史的遺産である〇〇に近接しており、近隣の建築物も〇〇の意匠を取り入れたものとなっている。 〇 当行為地は、低層住宅地の端に位置し、敷地の反対側は公園となっている。 [第2種住居地域] 用途地域の指定等を記載してください。																				
項目	景観形成基準	具体的な配慮又は工夫の内容	適否※	意見※																		
形態意匠	建築物及び工作物	周辺の景観との調和に配慮し、圧迫感を与えないよう工夫すること。	適・否	「〇〇に配慮した。」 「〇〇と調和した。」 等の記載ではなく、「〇〇との連続性を意識し、〇〇とした。」 「周囲が〇〇のため、〇〇と調和した意匠とした。」など具体的に記入してください。																		
	工作物	道路との境界に塀を設置する場合は、ブロック塀を避け、生垣や板塀の設置に努めること。	適・否																			
色彩	建築物	屋根や外壁は、周辺の景観と調和する落ち着いた色彩を基調とすること。	適・否	〇 使用する色彩は、景観形成重点地区の色彩基準内のものとし、色数も抑えた。 〇 近隣の店舗と配色、デザインを合わせ商店街としての統一感を演出した。																		
	工作物	目立つ色彩は避け周辺の景観と調和する色彩を基調とすること。	適・否																			
高さ	周辺の景観に配慮した高さとする。	〇 神社の参道に面しているため、他の参道に面した家屋との連続に配慮し、同じ高さとした。 〇 近隣の店舗と壁面を合わせ統一感を意識した意匠とした。	適・否																			
位置	道路及び隣地境界に面する壁面は、可能な限り後退させること。	〇 近隣店舗と壁面を合わせ、統一感を意識した意匠とした。 〇 近隣住宅と壁面を合わせた。	適・否																			
緑化	道路に面する場所や敷地内は花や樹木等による緑化に努めること。	〇 エントランス部分にシンボルとなる高木を移植した。 〇 塀と道路の間に樹木を植栽し、塀を直視できないようにした。	適・否																			
眺望景観	用途地域の指定のない土地の区域では、景観計画で定める保全対象の眺望景観における視点からの主対象の眺めを著しく阻害しないこと。 建築物(工作物)の高さは、別に定める視点と主対象の上端を結ぶ面を超えないようにすること。 やむをえず眺望面を超える場合は、当該建築物(工作物)の位置、形態意匠を保全対象の眺望景観全体と調和のとれたものとする。	<table border="1"> <tr> <td>主対象名</td> <td>〇〇山</td> </tr> <tr> <td>視点となる道路名</td> <td>〇〇線</td> </tr> <tr> <td>視点の位置</td> <td>緯度 NO° O' O"</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>経度 EO° O' O"</td> </tr> <tr> <td></td> <td>標高 〇,〇〇〇m</td> </tr> <tr> <td>主対象～視点間距離</td> <td>〇,〇〇〇m</td> </tr> <tr> <td>主対象～視点標高差</td> <td>〇,〇〇〇m</td> </tr> <tr> <td>建築物等～視点間距離</td> <td>〇,〇〇〇m</td> </tr> <tr> <td>建築物等の高さ</td> <td>〇,〇〇〇m</td> </tr> </table> 〇 検討の結果、眺望面を超えない。 〇 検討の結果、眺望面を超えてしまうが、敷地の範囲内で最大限影響がでない配置とした。 また、眺望面を超える部分が小さくなるように工夫した。(別添の資料のとおり。) ※主対象から建築物等へ結んだ線のうちもっとも眺望への影響の大きい線を延長して視点となる道路との交点	主対象名	〇〇山	視点となる道路名	〇〇線	視点の位置	緯度 NO° O' O"	※	経度 EO° O' O"		標高 〇,〇〇〇m	主対象～視点間距離	〇,〇〇〇m	主対象～視点標高差	〇,〇〇〇m	建築物等～視点間距離	〇,〇〇〇m	建築物等の高さ	〇,〇〇〇m	適・否	高層の建築物及び工作物については、視点となる道路に隣接しない場合でも、眺望景観の検討を行ってください。 眺望面を超える場合は、必ず事前相談を行ってください。 また、行為の規模、眺望面を超えて行為を行わなければならない理由等を整理した資料を添付してください。
主対象名	〇〇山																					
視点となる道路名	〇〇線																					
視点の位置	緯度 NO° O' O"																					
※	経度 EO° O' O"																					
	標高 〇,〇〇〇m																					
主対象～視点間距離	〇,〇〇〇m																					
主対象～視点標高差	〇,〇〇〇m																					
建築物等～視点間距離	〇,〇〇〇m																					
建築物等の高さ	〇,〇〇〇m																					

[記入上の注意]※印の欄は、記入しないでください。